

社会資本総合整備計画(第一回変更)

みやいち こくが ちく
宮市・国衙地区

やまぐち ほうふし
山口県 防府市

平成24年3月

都市再生整備計画(第四回変更)

みやいち こくが ちく
宮市・国衙地区

やまぐち けん ほう ふ し
山口県 防府市

平成24年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	やまぐちけん 山口県	市町村名	ほうふし 防府市	地区名	みやまこがちく 宮市・国衛地区	面積	220 ha
-------	---------------	------	-------------	-----	--------------------	----	--------

計画期間	平成 20 年度 ~ 平成 24 年度	交付期間	平成 20 年度 ~ 平成 24 年度
------	---------------------	------	---------------------

目標

- 大目標 「歴史を活かしたまちづくり」の実践
- ① 観光客の入り込み数および滞在時間の増加
 - ② 快適で安全な歩行者空間の創出
 - ③ 守り育ててきたまち並み環境の保全

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

・防府市は、その地名の由来のとおり大化の改新(645年)以降、当地に周防の国府がおかれ、奈良時代には国分寺が建立され周防の国の中心地として発展してきた。さらに平安時代には、日本三天神の防府天満宮が、鎌倉時代には東大寺別院阿弥陀寺が建立され、天満宮の門前町として形成された宮市地区は、商工業の中心として発展し防府のまちづくりの礎を築いた。

・こうした歴史から、文化財が幅広く、また数多く残っており、特に旧山陽道沿道部は、防府天満宮をはじめ周防国分寺、毛利氏庭園及び毛利博物館、周防国跡跡、旧山陽道・萩往還本陣兎部家などが集積し、歴史あるまちとしての魅力を充分に現している地区であり、市内全域で年間七十数万人の観光客が来訪しているが、市内の観光ルートの整備やこの貴重な歴史的資産を活かしたまちづくりを積極的に推進するために、平成9年に「防府市歴史美遊感計画」を策定した。

・平成13年度からは、地元住民へのアンケート調査の実施やワークショップの開催及び都市計画道路「新橋牟礼線」の整備を実施している。平成18年度より、新橋牟礼線の景観デザインに関する方針及び新橋阿弥陀寺線のデザインの方向性等についての検討をしている。

課題

- ① 観光客とのふれあいの場がないほか、回遊性が低いため特定の施設に観光客が偏りがちで各施設への観光客の入り込み者数がまばらであり、全体的に入り込み者数が伸び悩んでいる。
- ② 旧山陽道や萩往還は道幅が狭いうえに自動車の交通量が多く、自転車や歩行者の通行が安全でない。
- ③ 旧山陽道や萩往還沿いの歴史的なまち並みが失われつつある。

将来ビジョン(中長期)

防府市では、平成9年度に歴史的文化的文化財の整備活用と都市基盤の整備を推進するため「防府市歴史美遊感計画」を策定しているが、宮市・国衛地区はその中心地区となっている。また、宮市・国衛地区は「防府市景観形成基本計画(平成13年2月策定)」において、歴史的景観形成重点整備地区に指定されている。

従って、今後防府市では「第三次防府市総合計画(後期基本計画)平成18年3月策定」に基づき、観光の拠点となる観光交流センターのほか観光散策ルートの整備や観光サインの設置を行うとともに、地域住民やまちづくり活動団体と協働して歴史的なまち並みの保全に取り組み、防府市ならではの個性に溢れた“元氣”がにぎわうまちづくりの実現を目指す。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
観光交流センター付近の自転車・歩行者数	人/日	旧山陽道上の自転車・歩行者数	観光交流センターは地区内に点在する歴史的観光資源を繋ぐための拠点とし、観光客の回遊性を高めるために自転車・歩行者数の倍増を目指す。	100	H19	200	H24
景観およびまちづくりに関する満足度	%	住民アンケートによるまち並みへの満足度の割合	歴史を活かしたまちづくりを実践することにより地元住民の景観に対する意識が啓発されるとともに、住民の満足度の10%の増加を目指す。	46	H18	56	H24
主要観光施設への入り込み者数	万人/年	防府天満宮をはじめとする地区内の観光施設等への年間入り込み者数	現在、当地区には62万人の観光客が訪れているが、事業の進捗に伴いPR活動を強化し、入り込み者数10パーセント以上の増加を目指す。	62	H18	70	H24

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
①歴史を活かしたまちづくりを実践し、観光資源やまち並みを保存・活用していくことで地区内の魅力が再認識され、観光客へのおもてなしの心を育みながら交流していくための空間を整備する。	高次都市施設(観光交流センター)道路(車両系誘導看板)(基幹事業) 地域支援ガイド育成事業(提案事業)地域生活基盤施設(情報板) 地域創造支援事業(天満宮参道整備、観光交流センター) 事業効果分析調査(提案事業)
②道幅の狭い歴史的路線である旧山陽道および萩往還について、歩行者の安全性、快適性を高めるために歴史的な景観やまち並みに配慮した交通環境の整備を行う。	高質空間形成施設(舗装整備/電線類地下埋設施設)(基幹事業) 安心・安全推進事業(提案事業) 事業効果分析調査(提案事業)
③歴史的資産やまち並みを保全・形成していくために、住民や地域NPOと協働して景観に対する意識の醸成・高揚を図る。	景観保全形成推進事業、まち並み景観保全育成事業、地域支援ガイド育成事業(提案事業) 地域創造支援事業(天満宮参道整備)
<p>その他</p> <p>○歴史的なまち並みの保全と新しいまち並みを形成するための方策について 歴史的なまち並みの保全や沿道の景観形成を誘導するための条例は制定しているが、今後、懇談会や勉強会等により景観に対する意識の醸成・高揚を図り、景観法に基づく景観形成地区の指定を目指す。</p>	

みやいち こくが やまぐちけんほうふし
宮市・国衙地区(山口県防府市) 整備方針概要図

目標	大目標:「歴史を活かしたまちづくり」の実践 ・観光客の入り込み数及び滞在時間の増加 ・快適で安全な歩行者空間の創出 ・守り育ててきたまち並み環境の保全	代表的な指標	観光交流センター付近の自転車歩行者数 (人/日)	100 (19年度)	→	200 (24年度)
	景観およびまちづくりに関する満足度 (%)		46% (18年度)	→	56% (24年度)	
	主要観光施設への入り込み者数 (人/年)		62万人 (18年度)	→	70万人 (24年度)	

